

エヌエフ基金 奨励賞に10人

都内で表彰式

【横浜】エヌエフ基金（横浜市港北区、辻 毅 一郎代表理事）大阪大学名誉教授）は、35歳以下の若手研究者を支援する「第13回（2024年度）エヌエフ基金研究開発奨励賞」に10人を選出し、都内で研究発表会・表彰式（写真）を開いた。研究内容プレゼンテーションの後、優秀賞2人と選考委員会特別賞1人が発表され、辻代表理事が奨励賞を含む受賞者全員を表彰した。優秀賞は東京大学大学院新領域創成科学研究科の鬼頭俊介氏による「価電子軌道の真空間観測手法の開発」（先端計測分野）と、産業技術総合研究所デバイス技術研究部門の村田博雅氏による「炭素結晶の低温成長技術の開発とデバイス応用」（新価値創成分野）。選考委員会特別賞は東京電機大学工学部電気電子工学科の渡辺翔一郎氏による「電気鉄道における省エネルギー運転理論の実証と実応用に向けた研究開発（環境・エネルギー分野）。本多敏選考委員長（慶応義塾大学名誉教授）は「奨励賞10人の研究成果はいずれも素晴らしく、選考委員は苦渋の選考を重ねた。今回の受賞が契機となって、研究がさらに進展することを期待している」と総評した。



研究発表会・表彰式